

私の家では母がほとんどの家事をしています。料理も洗濯も掃除も毎日母がしています。私は手伝おうと思って、少し手伝いますが、すぐ他のことを始めて、結局母に任せてしまいます。私は毎日母がどんな思いをして家事をしていたのか、考えたことがありませんでした。

ある日、私は母とけんかをしてしまいました。母と話していたときに、私がきつい言葉を使ったことが原因でした。言い争っている中で、母は私の態度について言いました。

「なんでもしてもらって当たり前と思っているでしょう。

そう思っているから人にそんな態度を取れるんですよ。」

私はその言葉にとっても腹が立ちました。「私は当たり前とっていない」と考えていたからです。でも、確かにけんかをしていた時の私の態度はとてもひどかったです。自分からあやまることもなく、理屈をひたすら言っているだけでした。結局、その後は、あやまることなく普通の生活に戻っていきました。

数日経って、私は母が手術すると聞きました。聞いた後、手術への恐怖と母がしばらく居なくなるさみしさに泣いてしまいました。しかも母がいない間、私家事をしなければいけないことにも気づきました。弟はまだ料理を作れないし、父は仕事で忙しいので、母がしていた家事のほとんどを私が一人ですることになったのです。

そして、母が入院し、母が家に居ない生活が始まりました。最初は、冬休み中だから何とかかなと思っていました。しかし、家事は私が思っていた以上に大変でした。おかずを2品同時に調理したり、ごみを回収してごみ捨てに行ったり、洗濯物を干したりたたんだり自分のしたいことができないくらい忙しいものでした。最初の方は洗濯などを一人でしていたので、寝るのが午前2時になるときもあり、体への負担がとても大きかったです。少しすると父や弟も手伝ってくれたので、だいぶ楽になりました。その時、母はこんなにも大変なことを一人でしていたんだと初めて気づきました。それと同時に私は、母が料理をし、洗濯をするのが当たり前だと思っていたことにも気づきました。

母が居なかったしばらくの間、私は家事の大変さ、母へのありがたさなどを改めて感じました。私が落ち込んでいるときには、いつでも明るくはげましてくれた母は、私にとって大切な存在であり、感謝しなければいけないと思いました。負担もあった分、大切なことに気づけたいい時間だったと思います。

それから私は、いろいろなことに感謝するようになりました。母にはもちろん、卓球の部活で球を拾ってもらったり、自分の仕事を手伝ってもらったりしたときには声を出して「ありがとう」と言うようにしています。今まで当たり前だと思っていたことは、実は当たり前ではなく、感謝しなければいけないことだったのだと気づくことができました。私はこれから「感謝することが当たり前」と思って過ごしていきたいと思っています。小さなことでもそれは当たり前ではなく、必ず誰かが関わっていることだから、常に感謝することを忘れないでいようと思います。

母は私にとって一番感謝すべき人だと思います。これからは感謝を言葉で伝えたり、心の中で思ったりするだけでなく、お手伝いなどの態度で伝えることができるようになっていきたいです。